

### 第Ⅲ期 第7回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

○日時：2024年3月18日（月） 13時00分～15時00分

○場所：国立天文台応接室、Zoom

○出席者：

（台外）今田晋亮委員（Zoom）、大朝由美子委員（Zoom）、河野孝太郎委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、田中雅臣委員（副委員長・Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、村山齐委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、藤井友香委員（Zoom）、満田和久委員（委員長・Zoom）、本原顕太郎委員（Zoom）、吉田道利委員（Zoom）

○陪席：

（台内）常田佐久台長（Zoom）、藤田常事務部長（Zoom）

#### 1. 第6回議事抄録の承認

2024年2月28日に開催された第6回国立天文台科学戦略委員会議事抄録の確認があり、承認された。

#### 2. 国立天文台台長報告

常田台長から報告があった。

#### 3. 報告書案について

国立天文台運営会議への2023年度諮問事項の検討結果報告（案）について前回からの変更点を中心に説明があり、議論を行った。今回議論した内容を反映したものを3月26日開催の運営会議へ提出することとした。

（主な意見交換）

「4.1 国立天文台のサイエンスロードマップを策定する手順とスケジュール」について一ロードマップを作成する委員会の方針を議論するフェーズが必要となり、最低でも1～2ヶ月を要するため記載すべきではないか。

ー「(1)L0I 募集と締め切り」の必要期間が1ヶ月となっているが、本年度はL0I 募集の前にタウンミーティングを開催しており、コミュニティへの周知を考慮すると1ヶ月では若干短いのではないか。

ースケジュール表は外部から見た場合を想定して作成している。タウンミーティングについては本文のロードマップ策定の箇所に（コミュニティとのやりとり）という文言を挿入することとしたい。

#### 「4.3 個々の計画提案とサイエンスロードマップ」について

ーサイエンスロードマップをボトムアップのプロセスで構築と言い切っているが、国立天文台が果たすべき役割には大規模学術フロンティア事業のように既に規定されたものもあり、完全にボトムアップで作るという書きぶりは違和感がある。

ー米国の素粒子分野の雑誌でロードマップを策定した際、どのようなバウンダリーコンディションで策定するのかという指示を受けて作るということが非常に明確であった。天文台の執行部からバウンダリーコンディションの指示があったうえで、残りの議論をボトムアップで行うのであれば両方のニーズが満たされるのではないか。

ー「提案に基づくボトムアップと天文台が果たすべき役割に基づく議論を踏まえて」という文言を本文に追加することとしたい。

#### 4. 来年度の国立天文台の将来シンポジウムの日程について

来年度の将来シンポジウム開催へ向けたスケジュールの見込みについて説明があった。

##### (主な意見交換)

ー将来シンポジウムのスケジュールは2案あり、案1は本年度と同様にヒアリングを兼ねてシンポジウムを12月頃に開催しサイエンスロードマップ案の作成を翌年度に回すというもの、案2はサイエンスロードマップ案を作成したうえで年度末ないし来年度に開催するというものである。つまり、日程を決めるためには次回のシンポジウムで何をやるのかを決める必要がある。

ーいずれにしてもサイエンスロードマップ案が作成された後にシンポジウムを開催する必要があることを考えれば、最初から12月までに開催すると決めて進めるのは非常に無理があるのではないか。

ーサイエンスロードマップの策定が遅れた場合には、第5期中期計画の作成に間に合わないという問題が出てくる。

ー天文台執行部としては急いでもらうことに越したことは無いが、一連の議論を鑑みれば急いでも良いことはないと感じており、後ろのスケジュールが厳しくなるのは仕方ない。万が一、中期計画に間に合わない場合でも策定されたサイエンスロードマップを無視して国立天文台が全く異なることを実施するといったことはあり得ない。

ー自然科学研究機構の中期計画策定タスクフォースは、中期計画開始の2年ぐらい前に動き出すものと認識している。予算要求との関係もあり策定のデッドラインはいつ頃になるのか。

ー第5期中期計画については、2026年の初頭までにサイエンスロードマップを策定し、その後1年かけて実施計画を作成することになるが、スケジュールに乗っているかと言われると遅い気がする。

ー第4期中期計画の文科省への提出は前年度の7月であったため機構としては6月には確

定していた。天文台が中期計画で機構にコミットする必要があるのはフロンティア、CfCAの共同利用、OISTERといったところである。

ーサイエンスロードマップについては2026年の初めに決まっていれば問題ないと思われる。ただし、実施計画についてはもう少し早く作成する必要がある。実施計画をどのように作成するのかはまだ議論しておらず、9月までの半年で行うことになる。

ーシンポジウムが年1回の開催ではコミュニティと十分な議論を行うには少ないのではないか。他にタウンミーティングのようなものを行うことも考えられる。

ー議論の場が不足するのであれば、ロードマップ案作成をハンドルする人たちが必要に応じて行えばよいのではないか。

ー基礎資料提出の途中の段階で、ドラフト版でシンポジウムを開くというやり方もあるのではないか。

ー本年度は書き方やレベルがバラバラで、そのような指摘も多かった。一旦ドラフトのものを提出してもらい、発表を通じてフィードバックをかけてもらったうえで、本提出という流れにするのはあり得ると思われる。

ー基礎資料提出の途中で発表してもらうことで、我々も何が提出されるのか知ることができ、提出する側も内容の見直しができるということでWin-Winの関係である。

ーその方向でスケジュールを組めば、LOI募集の締め切りを8月頃に設定でき、今年と同様に11月上旬にシンポジウムを開催できると思われる。

ー規模の大小、フロンティアや運交金であるかといったことである程度カテゴリ分けをしたうえでパラレルに委員会を立ててヒアリングを行った場合、ヒアリングに掛かる時間を半分くらいにすることはできないか。

ーヒアリングの実施方法についてはこれから議論する必要があるが、報告書(案)に記載した8カ月という期間は最も単純と思われるやり方を想定した場合のものであるため、これより短くできることを見込んでいる。

ーサイエンスロードマップ策定を担う委員会を早期に設置する必要があることから、どのように設置するかなど、報告書にもっと踏み込んで記載しなくてもよいのか。

ーサイエンスロードマップ策定を担う委員会についてはまだ議論できていない状態である。ロードマップ策定を担う母体は新たに整備する必要があるが、委員には非常に大きな負荷が予想されることから、例えば科学戦略委員会が母体となる場合でも委員の選定から改めて考慮する必要があることを記載している。

ー十分に議論がなされているわけではないが、科学戦略委員会以外にそのような委員会をいくつも作るのは屋上屋を重ねることになるため、科学戦略委員会が担うべきである。9月に改選になるので、その際には非常に負荷が大きくなることを明らかにしたうえで依頼し、問題が無ければ科学戦略委員会が行うことになるのではないか。

ー本委員会は運営会議が設置するものであるためロードマップ策定の委員会をこちらから指定することはできないが、スケジュールに関するこれまでの議論を踏まえたうえで設置

する必要があることを報告書に追加することとしたい。

ー先ほど議論したように 11 月にシンポジウムを開催する場合に LOI 募集や新たな委員会の設置などに要する時間を考慮すると、少なくともサイエンスロードマップと実施計画の提案までは本委員会が担う必要があると思われるが、任期終了となる今年の 9 月までにそこまで行うということが明確になっていないのではないかな。

ー本委員会の責任として、天文台の執行部と相談しコミュニティの意向を中期計画に反映させるためには、いつまでに LOI が提出されていないと到底間に合わないということを報告書の中で言い切ってしまうのがよいのではないかな。

ー運営会議として、サイエンスロードマップ策定を担う母体を後のスケジュールに十分間に合うよう早急に立ち上げるべきということと、その母体はこれまでの本委員会での議論が十分に引き継がれる必要があるということを明確に記載することでよいのではないかな。運営会議まで 1 週間しかないので案が付いたままになるが、本日議論した内容を反映した報告書を早急に作成するので事前に確認いただき、メール審議を含めて対応をお願いしたい。

ー2024 年度の本委員会のスケジュールは現在のところ未定だが、毎月最低 1 回は開催するペースが必要である。対面の方が早く進むこともあると思われ、それも考慮しつつスケジュールの調整を行わせて頂きたい。

以 上